

# 三田市立幼稚園のあり方について

( 答 申 )

平成30年9月

三田市立学校園のあり方審議会

## 目 次

答申にあたって	1
第1章 三田市の就学前施設について	2
1 就学前施設の設置経緯と現状	
2 市内就学前施設の利用状況	
第2章 三田市立幼稚園の現状と課題	3
1 園児数の推移	
2 これまでの取り組み	
3 市立幼稚園の課題	
第3章 今後の市立幼稚園のあり方について	5
1 市立幼稚園の役割	
2 望ましい集団規模	
3 保護者ニーズへの具体的な方策・方向性	
<b>【資料編】</b>	
① 諮問書（写し）	9
② 三田市立学校園のあり方審議会規則	10
③ 三田市立学校園のあり方審議会委員名簿	11
④ 審議会検討経過	12
⑤ 市内就学前施設一覧	13
⑥ 市内就学前施設の利用状況	14
⑦ さんだの子育て支援についてのアンケート調査実施結果	15
⑧ 小学校入学児童の就学前施設在籍状況	16
⑨ 保育所待機児童の状況について	17
⑩ 市立幼稚園園児数の推移	18
⑪ 三田市就学前保育・教育のあり方に関する提言書（抜粋）	19
⑫ 平成30年度三田市立幼稚園の園児数〔園区内就園率の状況〕	23
⑬ 市内就学前施設の配置状況	24

## 答申にあたって

平成27年4月にスタートした「子ども・子育て支援新制度」を受けて、社会全体で子どもの育ちや子育てを支えることをめざし、「支援の量の拡大」、「支援の質の向上」、「仕事・子育ての両立支援」などさまざまな施策が進められてきた。

また、変化の激しい現在、社会において、多様な状況に対応できる力の基礎が求められ、幼児期の教育の重要性が注目されるようになった。

平成30年4月より施行された新幼稚園教育要領では、「幼児期に育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、小学校以降の生活や学習の基礎を培う「学校教育のはじまり」としての役割を担う質の高い教育が求められている。

同時期に改訂された「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」においても、3歳からの内容は「幼稚園教育要領」と同じものとなり、すべての就学前施設で同様の「質の高い教育・保育」が求められている。

三田市においては、平成22年4月から園区制度を見直すとともに、平成23年2月にとりまとめられた「三田市の就学前保育・教育のあり方に関する提言書」に基づき、異年齢児がかかわり合い、学び合いながら育つ「4・5歳児混合保育」、「子育て支援型の預かり保育」を実施するなど工夫を重ねてきた。

しかし、この間の「子ども・子育て支援新制度」、「保育ニーズの多様化」等の変化に十分応えきれておらず、少子化等もあいまって、市立幼稚園の小規模化が加速度的に進んでいる状況である。

以上のことから、平成29年7月25日に「三田市立学校園のあり方審議会」（以下、「審議会」という）は、三田市教育委員会より諮問を受け、子どもたちにとってより良い教育環境づくりに向けて、本市における現状と課題を分析し、「適正規模」および「適正配置」を中心とした、学校園の今後のあり方について協議することとなった。

本審議会では、「市立小中学校の今後のあり方」に続いて、「市立幼稚園の今後のあり方」について、平成30年4月25日より平成30年9月14日まで、計5回にわたる審議を経て、今回の答申をまとめることができた。

今後、三田市教育委員会においては、この答申を十分尊重した上で、市立幼稚園の今後のあり方についての基本方針・基本計画を策定し、丁寧な説明に努めると共に、市長部局との十分な連携のもと、三田の子どもたちの未来のために真摯に教育行政に当たられることを願う。

最後になったが、委員のみなさんの熱心な議論により、本答申をまとめることができたことに深く感謝申し上げたい。

三田市立学校園のあり方審議会  
会長 大野 裕己

# 第1章 三田市の就学前施設について

## 1 就学前施設の設置経緯と現状

三田市の市立幼稚園は、大正14年、三田幼稚園が開設して以来、昭和50年代半ばには、市立幼稚園が7園、市立保育所が5園設置された。

その後、「1小学校区1園制」という市の方針に伴い、本庄保育所が本庄幼稚園に、藍保育所が藍幼稚園に改編され、更に新興住宅地内（川除）に松が丘幼稚園が開園した。

また、平成元年には羽束保育所・大舟保育所・小柿幼稚園が高平幼稚園に統合され、小学校に隣接するかたちで市立幼稚園が10園配置され、市立保育所は三田保育所1所となった。

昭和50年代にはニュータウン開発が本格化し、昭和56年の入居開始以来、幼児数の急激な増加に対応するため、ニュータウン地域では、民間の活用を図るという市の方針のもと小学校に隣接した場所に私立幼稚園10園が誘致され、順次配置された。

その後、保育ニーズの多様化、子ども・子育て支援新制度の創設とともに、私立幼稚園10園のうち9園は認定こども園へと移行した。また、私立保育園は、保育ニーズの高まりにより、徐々に施設数が増え10園となり、うち2園が平成30年4月より認定こども園に移行している。

「市内就学前施設一覧」【資料⑤ P13】

## 2 市内就学前施設の利用状況

市内に在住する1、2歳児の約3割～4割程度、3歳児の約8割程度が市内就学前施設を利用している状況が見られる。平成29年4月～12月に実施した「さんだの子育て支援についてのアンケート調査」（以下「アンケート(H29)」と表記）において、就学前施設を利用したい年齢として「3歳児から」の希望が一番高いことから、3歳児保育についてのニーズは大変高いことがうかがえる。

また、市立幼稚園地域<sup>\*1</sup>で市立幼稚園を利用せず、保育園所や認定こども園等を利用している人の割合が高いことから、市立幼稚園が地域の保護者ニーズに十分応えきれていないと考えられる。

一方、利用割合としては低いものの、私立幼稚園地域<sup>\*2</sup>から市立幼稚園への就園もあることから、家庭の状況や保護者の考え方等により、市立幼稚園に対する一定のニーズがあることがうかがえる。

平成30年4月1日現在の保育所待機児童数（以下「待機児童」と表記）は28名であり、ウッディタウンが15名と最も多く、その他各地域に分散して待機児童が発生している状況である。

「市内就学前施設の利用状況」【資料⑥ P14】

「さんだの子育て支援についてのアンケート調査実施結果」【資料⑦ P15】

「小学校入学児童の就学前施設在籍状況」【資料⑧ P16】

「保育所待機児童の状況について」【資料⑨ P17】

\*1 市立幼稚園地域（フラワー、ウッディ、カルチャー、つつじが丘地域以外の地域）

\*2 私立幼稚園地域（フラワー、ウッディ、カルチャー、つつじが丘地域）

## 第2章 三田市立幼稚園の現状と課題

### 1 園児数の推移

市立幼稚園の園児数は、平成13年度の834名から年々減少を続け、平成30年度には296名と約1/3に減少している。(図1)

園児数は、全園で減少傾向にあるが、特に農村部に位置する7園(志手原・本庄・小野・母子・藍・松が丘・高平)については、ほとんどが1学年10名未満となり、小規模化が著しい。(表1)

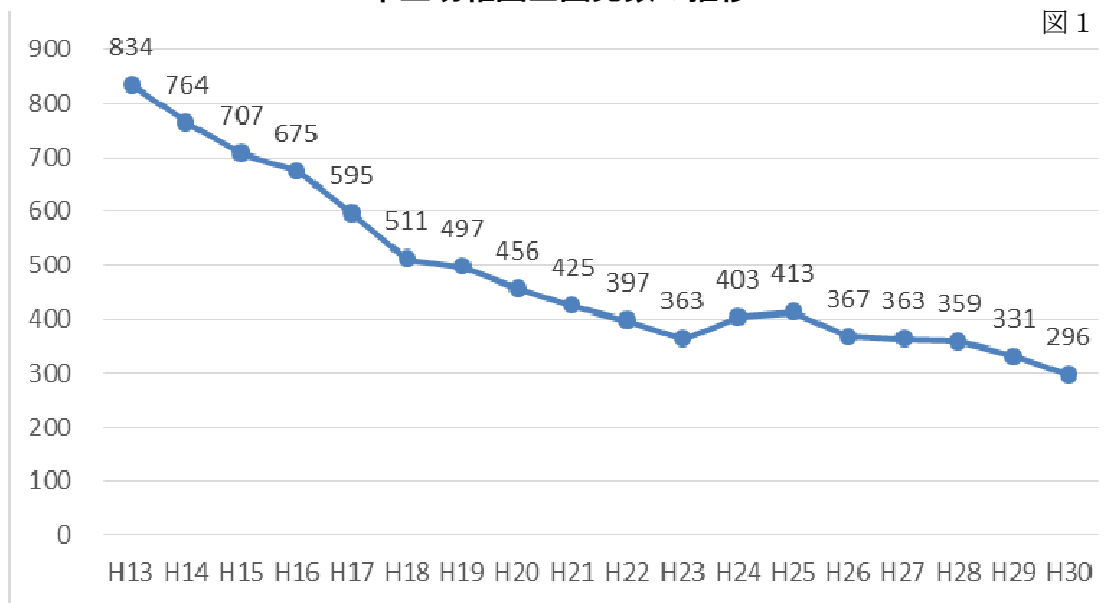
また、三田、三輪幼稚園については、徒歩通園ということもあり、立地は比較的良いが、減少傾向が続いており、多くの保護者から選ばれているとは言い難い状況である。

一方、広野幼稚園の園児数は平成13年度と比較すると2/3程度に減少しているものの、近年増加又は横ばい傾向である。ニュータウンに隣接しており、駐車スペースもあることから、園児の半数以上が保護者の送迎等により園区外(ニュータウン)から通園していることが、主な要因として考えられる。

なお、母子幼稚園については、平成30年度は園児数が0名となり、4月より休園している。

「市立幼稚園園児数の推移」【資料⑩ P18】

市立幼稚園全園児数の推移



市立幼稚園園別園児数(H30.5.1 現在)

表1

	三田	三輪	志手原	広野	本庄	小野	母子	藍	松が丘	高平	合計
4歳	56	23	6	25	5	6	休園中	9	4	12	146
5歳	51	21	5	35	3	6		9	8	12	150
合計	107	44	11	60	8	12		18	12	24	296
うち園区外	11	2	1	30	0	2		9	3	0	58

\* 「園区外」とは、各園の合計園児数のうち現在就園している幼稚園区以外に住所のある園児数

## 2 これまでの取り組み

三田市では、多様な保育ニーズに対応するため、平成22年4月から従来の園区制度（小学校区）を見直し、市内全域から公立、私立を問わず、どの幼稚園にでも通えるようになっている。

平成23年2月に提出された「三田市就学前保育・教育のあり方に関する提言書」（以下「提言書(H23)」と表記。）を基に、平成24年度より、母子幼稚園に続き、順次、本庄、志手原、小野幼稚園で4・5歳児混合保育<sup>※3</sup>を実施してきた。

また、全10園で子育て支援型預かり保育<sup>※4</sup>を開始するとともに、居宅の子どもとその保護者を対象に地域子育て支援推進事業「げんき」や園庭開放を行い、幼稚園が地域の子どもやその保護者の集いの場となるよう工夫されている。

更に、市内すべての就学前施設が活用できる「保幼・小接続カリキュラム」や「共通カリキュラム」を作成し、幼児に保育園所や幼稚園での学びを保障し、小学校以降の生活や学習につながる力を育み、子どもたち自身の力を十分に発揮できるよう、全市的な取組を進めてきている。

しかし、「提言書(H23)」で示された、「希望するすべての人へのサービス提供体制の整備」については、十分取組が進んでいるとは言えない状況である。

### 「三田市就学前保育・教育のあり方に関する提言書」【資料⑩ P19～P22】

**※3 4歳児・5歳児が同じ学級で生活や遊びを共にし、多様な経験から自我の発達を促すと共に豊かな人間関係の中で、社会性、協同性を育む保育。**

**※4 保護者の子育て支援の一環として、教育時間終了後に希望する在園児を対象に行う保育。**

## 3 市立幼稚園の課題

市立幼稚園の園児数は減少の一途をたどり、多くの園で集団としての一定規模を確保することが難しい状況となっている。

一方、市内では待機児童が発生しており、長時間保育や3歳児保育など多様化する保育ニーズに十分対応できていない状況である。

市立幼稚園において、一定規模を確保した上で、子どもたちに「質の高い教育・保育」を提供すると共に、就学前施設として多様な保育ニーズに早急に対応する必要がある。

## 第3章 今後の市立幼稚園のあり方について

### 1 市立幼稚園の役割

三田市において、これまでから研究会や研修会の合同開催、幼小連携協議会への参加等、市立幼稚園と私立幼稚園が互いに協力しながら連携を深めてきたことは、本市における幼児教育の特色として高く評価できる。

ニュータウン開発に伴う急激な人口増加に対応するため、私立幼稚園を誘致してきた歴史的経過等も踏まえ、市立幼稚園の役割として、公教育の公平性を確保し、私立の就学前施設との関係性を保ちながら、今後も、質の向上に向けての取組を充実させ、幼児教育についての情報発信の拠点として、研究・研修の成果や市の教育・保育の方向性を発信していくことが求められる。

また、特別支援教育の充実やセーフティーネットとしての役割など、市立幼稚園が果たすべき役割は大変重要であり、市全体の幼児教育の充実、底上げのため、今後もこれらの役割を果たしていくことを期待する。

#### 市立幼稚園の役割

- ①幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育の深化、充実、情報発信
- ②特別支援教育の充実
- ③様々な状況にある子どもも含め、幼稚園教育を受ける機会を確保するセーフティーネット
- ④幼児教育のセンター的機能の充実

### 2 望ましい集団規模

#### (1) 検討の前提

望ましい集団規模を検討するにあたっては、「幼稚園教育の目的」や、「それを実現するための目標」、「幼児期において育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などについて、学校教育法や幼稚園教育要領に照らし、共通認識を図るとともに、これらを具現化するために必要となる「集団規模」について、検討することとした。

また、「提言書（H23）」における「同年齢・異年齢と協同的に遊ぶことや、子どもの育ちを保障していくためには、ある程度の集団の確保が必要である。」との提言も踏まえ、検討することとした。

#### ① 学校教育法第22条

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

#### ② 学校教育法第23条

幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 1 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- 2 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。

- 3 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- 4 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。

### ③「幼稚園教育要領」

#### 1「幼児期に育みたい資質・能力」

- (1) 知識・技能の基礎 (2) 思考力・判断力・表現力等の基礎
- (3) 学びに向かう力、人間性等

#### 2「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- (1) 健康な心と体 (2) 自立心 (3) 協同性 (4) 道徳性・規範意識の芽生え
- (5) 社会生活との関わり (6) 思考力の芽生え (7) 自然との関わり・生命尊重
- (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9) 言葉による伝え合い
- (10) 豊かな感性と表現

## (2) 審議会での意見

本審議会では、「幼稚園の時期は、子どもたちが子どもたちから学ぶ大事な時期であり、集団の中で、社会性を身に付けたり、経験の中から、子どもたちが気づいていくことができる環境が必要である。」、「人数の多い中で、子どもたちが様々なことを学んでいくことが大切である。」などの意見が出され、「ある程度の集団の必要性」について、改めて共通理解が図られた。

また、この間実施してきた4・5歳児混合保育については、「様々な活動の中で工夫して実施されており、大変意義があるが、幼児の発達段階には幅があり、基本的には、同年齢での活動が望ましい。」等の意見が出された。

## (3) 具体的な規模等

「望ましい集団規模」としての、具体的な人数等について検討した結果、下記のとおり一定の結論を得ることができた。

**1学級の人数は同年齢で、おおむね15～30人程度が望ましい。**

**委員の主な意見は下記のとおりである。**

- ①5歳で35人はやや多いと感じるため、1学級の上限は30人、下限は20人程度が望ましい。
- ②活動を広げ、生活・遊びの流れを作るためには、最低でも1グループ3、4人で、3、4グループ必要であり、人数の下限は15人である。
- ③集団を作り子どもたちの成長を促すため、15人を保障することが必要である。
- ④1学級35人は、子どもの遊びの広がりなどを考えると悪くないが、しっかりと子どもたちを見ていくという上においては、30人程度が上限ではないか。
- ⑤様々なアンケート結果や経験を通じて、望ましい集団規模は20人前後と考える。



#### (4) 「今後の方向性」

これらを踏まえ、「協同的に学ぶ経験」を確保し、幼児期の発達段階に応じた集団活動やグループ活動等の広がりや深まりをめざす教育的な側面から、今後、この望ましい規模を確保できるよう、就学前施設の適正配置や保護者ニーズへの対応を検討されたい。

また、1学級の人数が多い場合や、特別な配慮を要する園児が在籍している場合は、きめ細やかな指導を行えるよう人的配置についても配慮されたい。

### 3 保護者ニーズへの具体的な方策・方向性

望ましい集団規模を確保し、子どもたちにとってより良い教育環境を整えることを前提とし、多様な保育ニーズに対応する方策として、下記事項について検討されたい。

#### (1) 3歳児保育

「アンケート(H29)」において、就学前施設を利用し始めたい年齢として、「1歳未満」から「3歳」までの合計は86%であり、うち「3歳から利用したい。」と回答した保護者は全体の40%と最も高く、「3歳」から、集団での教育・保育を望む保護者の割合が高い状況である。

4・5歳児の市立幼稚園の園区内就園率(市立幼稚園地域から市立幼稚園に通う児童の割合)は、地域差はあるものの、全体で4歳児39%、5歳児42%と半数以下であることから、市立幼稚園地域から、私立幼稚園地域へ就園していることがうかがえる。

また、本審議会でも「今後、市立幼稚園は3歳児からに広げていくことが必要」、「3歳児保育を含めて考えれば、市立幼稚園を選ぼうという人も増える。」、「3歳ぐらいから預けたいというのが、今の若い方の主流な考え方ではないか。」などの意見が出された。

これらを踏まえ、4、5歳児における望ましい集団を確保した上で、市立幼稚園においても「3歳児保育」の実施について検討されたい。

**「平成30年度三田市立幼稚園の園児数〔園区内就園率の状況〕」【資料⑫ P23】**

#### (2) 預かり保育

平成24年度より市立幼稚園において、子育て支援型預かり保育を全9園(母子幼稚園は現在休園中のため実施せず)で、週2回～3回実施している。

本審議会でも、「預かり保育の時間延長を望む声がある。」、「預かり保育の拡充(回数、時間)については、預ける側、預かる側双方の負担の問題、体制の問題も考えながらの慎重な充実ということになるのではないか。」などの意見が出された。

これらを踏まえ、市立幼稚園での預かり保育を子育て支援型として継続し、3歳児保育等の実施に合わせ、保護者ニーズや体制等の課題も考慮しながら、回数、時間等の拡充について検討されたい。

#### (3) 幼保連携型認定こども園

市立幼稚園の認定こども園化については、この間の「子ども・子育て支援新制度」、「保育ニ

ニーズの多様化」等の変化も踏まえ、市全体の待機児童の状況も勘案しつつ検討を行った。

「アンケート(H29)」では、「現在仕事に就いている、若しくは将来的に仕事に就きたい」と考える保護者の割合は74%であり、「3歳までに就学前施設を利用し始めたい」と考える保護者の割合は86%と高い状況である。

平成30年4月1日現在の保育所待機児童は28名で、その内訳は0歳から3歳が27名であり、待機児童のほとんどが3歳以下という状況である。

本市では、市立幼稚園において大きく定員割れが進む一方、市全体では待機児童が発生しており、保育ニーズが大きく変化してきている。保護者の就労形態の多様化などを背景に、長時間保育への対応や、0歳児から3歳児の受け入れニーズは今後も増々高まるものと予想される。

また、市立幼稚園地域から私立幼稚園地域へ就園されている割合が多く、市立幼稚園地域で保育ニーズに対応することにより、待機児童解消に一定の効果が期待できるものと考えられる。

本審議会でも「待機児童を解消しようとする、一番受け皿が大きいのが、認定こども園である。」、「三田の場合は、広い地域に待機児童があり、地域性も含めて考える必要がある。」、「公立で認定こども園を作ることについて、一考していく価値はある。」などの意見が出された。

これらを踏まえ、これまでの既存の幼稚園、保育園所、認定こども園の公私バランスを考慮しながら、更に、多様な保護者ニーズに応えられるよう、市立幼稚園の認定こども園化について、早急に検討されたい。

#### (4) 適正配置

就学前施設の全市的なバランスを考えると、三田駅周辺、ニュータウンに保育園所、認定こども園が多数設置されているのに対し、国道176号線より東側には保育所的な機能を有する施設がない。このことについては、「提言書(H23)」においても意見として出され、「既存の幼稚園、保育園所、認定こども園のバランスを考慮しながら就学前施設の適正配置を検討されたい。」との提言が示されているところである。

本審議会でも「希望する就学前施設がないことや、生活スタイルと合わないことで地域から外に出ざるを得ないという状況もある。」、「保護者ニーズに応じて、幼稚園、その他の施設を選択でき、車による送迎が可能な施設の整備が必要である。」、「地域、施設のバランスも考えながら、幼稚園としての役割や施設をそのまま残すことも合わせて、今後の議論ができればよい。」などの意見が出された。

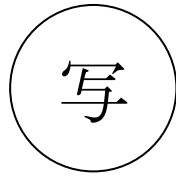
更に、「適正配置を検討する際は、これまで三田市で進めてきた保幼小の連携について、今後も、継続的に発展させていけるよう留意されたい。」との意見も出された。

これらを踏まえ、今後の園児数の推移、保育ニーズ、全市的な地域バランス、通園の安全性等も考慮しつつ、集団規模の確保とあわせて、市立幼稚園地域での就学前施設（市立幼稚園、幼保連携型認定こども園）の適正配置についても、早急に検討されたい。

また、幼稚園の再編にあたっては、園児の通園負担の軽減、保護者ニーズ等も勘案し、送迎のための駐車スペースの確保や、市立幼稚園地域内での通園バスの導入についても検討されたい。

#### 「市内就学前施設の配置状況」【資料⑬ P24】

# 資 料 編



三教総第 238 号  
平成 29 年 7 月 25 日

## 諮 問 書

三田市立学校園のあり方審議会  
会 長 様

三田市教育委員会  
教育長 鹿嶽 昌功

三田市立学校園のあり方基本方針の策定について（諮問）

全国的な少子化の流れの中で、本市においても小学校・中学校および幼稚園の一部で、幼児・児童・生徒数の減少に伴い、小規模化が進むなど、保育・教育への様々な課題が出てきています。

つきましては、子どもたちにとってより良い教育環境づくりに向けて、三田市立学校園のあり方基本方針の策定に関する下記事項を諮問いたします。

### 記

#### 1 諮問事項

三田市立小中学校および幼稚園のあり方についての基本方針の策定について

- ① 学校園の適正規模・適正配置に関する事項について
- ② その他、学校園のあり方に関する事項について

#### 2 答申時期（予定）

小学校・中学校に関する事 平成 30 年 3 月

幼稚園に関する事 平成 30 年 8 月

## 三田市教育委員会規則第1号

## 三田市立学校園のあり方審議会規則

## (趣旨)

第1条 この規則は、三田市附属機関の設置に関する条例(平成21年三田市条例第2号)第5条の規定に基づき、三田市立学校園のあり方審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

## (会長及び副会長)

第2条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を統括し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

## (会議)

第3条 会議は、会長が招集し、会長がその会議の議長となる。

2 審議会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、審議会に関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

## (庶務)

第4条 審議会の庶務は、学校及び幼稚園の設置、廃止に関する事務を所管する担当課において処理する。

## (補則)

第5条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

## 付 則

## (施行期日)

1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。

## (招集の特例)

2 この規則の施行後及び任期満了後最初に招集される審議会の会議は、第3条第1項の規定にかかわらず、三田市教育委員会が招集することができる。

## 三田市立学校園のあり方審議会委員名簿（H30、4 現在）

委員 13 名

No.	氏 名	所属・役職等
1	おおの やすき 大野 裕己	滋賀大学教職大学院教授
2	てらみ ようこ 寺見 陽子	神戸松蔭女子学院大学大学院教授
3	あかい よしかず 赤井 由和	三田市立長坂中学校長
4	ふじわら けんじ 藤原 賢治	三田市立けやき台小学校長
5	つねます ひでみ 常倍 英美	三田市立広野幼稚園長
6	かわた たけし 川田 長嗣	三田市私立幼稚園連合会会長
7	にし さゆり 西 さゆり	三田市民生委員・児童委員協議会
8	やぶた まさお 藪田 昌夫	三田市 P T A 連合会
9	ながい かずひろ 永井 和浩	三田市 P T A 連合会
10	くにえだ あさみ 國枝 亜佐美	市民委員
11	つつみ たかひろ 堤 貴洋	市民委員
12	みやもと かずのり 宮本 和徳	市民委員
13	たけだ あきこ 竹田 晶子	市民委員

## 審議会検討経過

区分	開催日時・場所	審議事項等
第8回 (第1回)	平成30年 4月25日(水) 市役所南分館 601会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前保育・教育をめぐる国の動向</li> <li>・三田市の就学前施設について</li> <li>・市立幼稚園の現状と課題について</li> <li>・さんだの子育て支援についてのアンケート調査実施結果</li> <li>・意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>①幼児に必要な保育・教育について就学前施設に期待すること</li> <li>②保護者ニーズへの対応について</li> <li>③市立幼稚園の役割について</li> </ul> </li> </ul>
第9回 (第2回)	平成30年 5月30日(水) 市役所南分館 601会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回三田市立学校園のあり方審議会での主な意見等</li> <li>・市立幼稚園の役割、必要性について</li> <li>・幼児に必要な保育・教育と集団の必要性(人数・クラス数等)について</li> </ul>
第10回 (第3回)	平成30年 6月29日(金) 市役所南分館 601会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回三田市立学校園のあり方審議会での主な意見等</li> <li>・集団の必要性(人数・クラス数等)について</li> <li>・保護者ニーズへの対応について</li> </ul>
第11回 (第4回)	平成30年 7月25日(水) 市役所南分館 601会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回三田市立学校園のあり方審議会での主な意見等</li> <li>・答申素案について</li> </ul>
第12回 (第5回)	平成30年 9月14日(金) 市役所南分館 601会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答申案について</li> </ul>

## 市内就学前施設一覧（平成 30 年 4 月現在）

## (1) 市立幼稚園（10園）

園名	所在地	園名	所在地
三田幼稚園	西山	広野幼稚園	上井沢
三輪幼稚園	三輪	本庄幼稚園	東本庄
志手原幼稚園	志手原	藍幼稚園	西相野
母子幼稚園	母子	松が丘幼稚園	川除
小野幼稚園	小野	高平幼稚園	下里

## (2) 私立幼稚園（1園）

園名	所在地
親和女子大学附属親和幼稚園	ゆりのき台

## (3) 私立認定こども園（11園）

園名	所在地	園名	所在地
湊川短期大学附属北摂第一幼稚園	武庫が丘	三田けやき台認定こども園	けやき台
湊川短期大学附属北摂中央幼稚園	すずかけ台	やよい幼稚園	弥生が丘
ふじ幼稚園	富士が丘	湊川短期大学附属北摂学園幼稚園	学園
三田あさひ幼稚園	あかしあ台	若草幼稚舎（H30.4より）	けやき台
三田さち幼稚園	狭間が丘	ゆうかりフレンズ（H30.4より）	狭間が丘
三田つつじが丘認定こども園	つつじが丘		

## (4) 市立保育所（1園）

園名	所在地
三田保育所	天神

## (5) 私立保育園（8園）

園名	所在地	園名	所在地
三田こぼと保育園	屋敷町	湊川短期大学附属キッズポート保育園	すずかけ台
光の子保育園	あかしあ台	よこやま保育園	南が丘
あいの保育園	下相野	さんだのもり保育園	高次
あさひ若草ナースリー	あかしあ台	三田 虹の子保育園	駅前町

## (6) 小規模保育施設（5園）

園名	所在地	園名	所在地
こぐまプリスクール三田園	駅前町	湊川短期大学附属ぼるとこども園	すずかけ台
やよいキッズ	駅前町	けやきキッズガーデン	あかしあ台
ミルクたんぼぼ園	西山		



## 市内就学前施設の利用状況（平成30年3月1日現在）

	校区	区分	施設名	認定区分	在籍人数（市内在住）							市外 （外書 き）				
					0歳	1歳	2歳	満3	3歳	4歳	5歳		合計			
1	三田小学校	幼	三田幼稚園	1号						49	65	114				
2	三輪小学校	幼	三輪幼稚園	1号						18	32	50				
3	志手原小学校	幼	志手原幼稚園	1号						5	14	19				
4	藍小学校	幼	藍幼稚園	1号						7	10	17				
5	本庄小学校	幼	本庄幼稚園	1号						3	5	8				
6	広野小学校	幼	広野幼稚園	1号						32	35	67				
7	小野小学校	幼	小野幼稚園	1号						4	7	11				
8	高平小学校	幼	高平幼稚園	1号						13	9	22				
9	母子小学校	幼	母子幼稚園	1号						1	2	3				
10	松が丘小学校	幼	松が丘幼稚園	1号						8	13	21				
11	武庫小学校	認幼	湊川短期大学附属北摂第一幼稚園	1号				11	37	61	37	146	14			
				2・3号			10	14	23	23	70	7				
				小計		10	11	51	84	60	216	21				
12	すずかけ台小学校	認幼	湊川短期大学附属北摂中央幼稚園	1号				10	61	59	69	199	5			
				2・3号					15	21	10	46	1			
				小計			10	76	80	79	245	6				
13	狭間小学校	認幼	三田さち幼稚園	1号				7	24	24	31	86	11			
				2・3号	5	8		13	17	10	53	4				
				小計	5	8	7	37	41	41	139	15				
14	富士小学校	認幼	ふじ幼稚園	1号				6	35	38	54	133	45			
				2・3号	5	2		6	3	6	22	3				
				小計	5	2	6	41	41	60	155	48				
15	あかしあ台小学校	認幼	三田あさひ幼稚園	1号				41	41	47	129	3				
				2・3号				6	11	8	25	0				
				小計				47	52	55	154	3				
16	弥生小学校	認幼	やよい幼稚園	1号				10	39	40	37	126	24			
				2・3号			7	8	6	6	27	7				
				小計		7	10	47	46	43	153	31				
17	つつじが丘小学校	認幼	三田つつじが丘認定こども園	1号				6	32	30	28	96	15			
				2・3号	4	7	20		15	16	12	74	7			
				小計	4	7	20	6	47	46	40	170	22			
18	けやき台小学校	認連	三田けやき台認定こども園	1号				0	69	69	76	214	16			
				2・3号	12	23	24		24	32	19	134	3			
				小計	12	23	24	0	93	101	95	348	19			
19	学園小学校	認幼	湊川短期大学附属北摂学園幼稚園	1号				0	30	36	48	114	4			
				2・3号					6	7	4	17	1			
				小計				0	36	43	52	131	5			
20	ゆりのき台小学校	幼	神戸親和女子大学附属親和幼稚園	1号				14	92	81	96	283	1			
		保育所	三田保育所	2.3号	9	19	24		24	25	28	129	0			
			三田こぼと保育園	2.3号	6	12	13		14	14	14	73	0			
			ゆうかり保育園（H30よりこども園）	2.3号	11	17	23		25	22	26	124	1			
			光の子保育園	2.3号	13	19	23		26	26	25	132	0			
			あいの保育園	2.3号	11	17	20		24	21	25	118	2			
			若草保育園（H30よりこども園）	2.3号	18	24	23		30	30	28	153	1			
			若草保育園分園あさひ若草ナースリー	2.3号	5	17	24					46	2			
			湊川短期大学附属キッズ・ポート保育園	2.3号	13	12	14		16	16	15	86	0			
			よこやま保育園	2.3号	8	12	13		15	15	14	77	0			
			さんだのもり保育園	2.3号	8	12	12		15	9	7	63	0			
			三田 虹の子保育園	2.3号	9	12	14		17	5	4	61	1			
					小規模 保育施設	こぐまプリスクール三田園	3号	2	8	7					17	0
						やよいキッズ	3号	2	6	10						18
ミルクたんぽぽ園	3号	5				8	8						21	0		
湊川短期大学附属ぼるとこども園	3号	4				10	8						22	0		
けやきキッズガーデン	3号	3				8	10						21	0		
計				1号				64	460	619	715	1,858	138			
				2.3号	143	253	317	0	313	319	284	1,629	41			
				総計	143	253	317	64	773	938	999	3,487	179			

参考 3月末人口 823 900 1,001 1,006 1,002 1,046 5,778  
 就園率 - 28.1% 38.1% 76.8% 93.6% 95.5% 60.3%

## さんだの子育て支援についてのアンケート調査実施結果

### (1) 調査の概要

実施期間：平成29年4月～12月

対象：9ヶ月、1歳6ヶ月、3歳児健診対象の保護者

実施方法：健診の案内とともにアンケートを送付 健診当日に回収

回収数：1,763（うち市立幼稚園地域：680、うち私立幼稚園地域：1,083）

### (2) 調査結果

- ・私立幼稚園地域と市立幼稚園地域でアンケート結果に大きな違いは見られなかった。
- ・就労については、現在若しくは将来的に仕事に就きたいと考えている保護者の割合が高い。
- ・就学前施設を利用したい年齢は、3歳からの希望が高い。
- ・就学前施設を選ぶ際に重視するポイントは、自宅からの距離、教育・保育の方針や内容、給食の有無などを重視している。

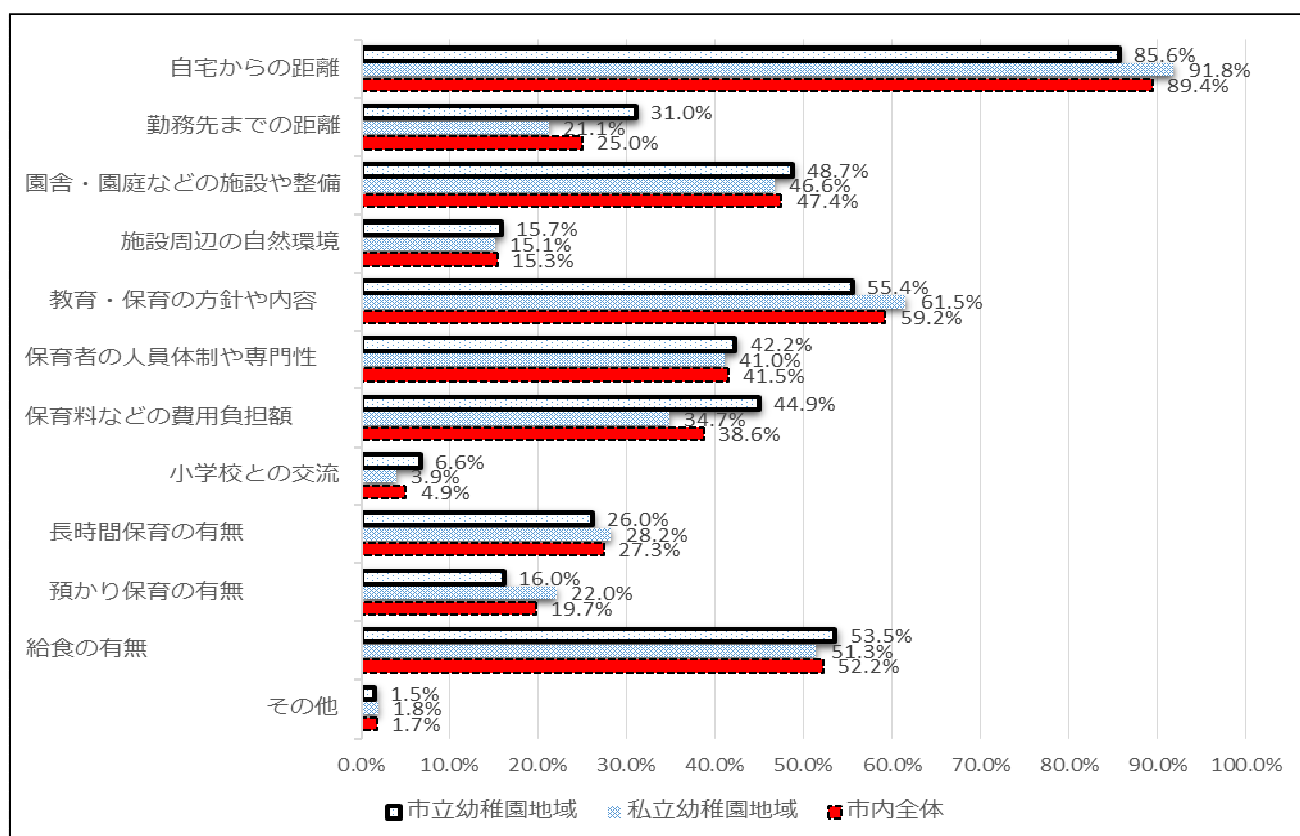
#### ① 現在、仕事に就いていますか？また、この先、仕事に就きたいと思いますか？

	はい	いいえ	わからない
市立幼稚園地域	73%	14%	13%
私立幼稚園地域	73%	15%	12%
市内全体 計	74%	13%	13%

#### ② 就学前施設（幼稚園・認定こども園・保育所等）は何歳から利用したいですか？

	1歳未満	1歳	2歳	3歳	3歳までの小計	4歳	5歳
市立幼稚園地域	14%	22%	11%	33%	80%	16%	4%
私立幼稚園地域	9%	25%	12%	45%	91%	8%	1%
市内全体 計	10%	24%	12%	40%	86%	12%	2%

#### ③ 就学前施設を選ぶ際に重視するポイントは何ですか？



## 小学校入学児童の就学前施設在籍状況

学校名	年度	市立幼	私立幼・認定こども園	保育所	その他	居宅	計	学校名	年度	市立幼	私立幼・認定こども園	保育所	その他	居宅	計
三田小学校	H28	59	21	33	7	0	120	武庫小学校	H28	9	64	13	9	2	97
	H29	55	27	29	6	0	117		H29	7	78	19	4	2	110
	H30	55	26	29	6	0	116		H30	8	58	22	3	0	91
三輪小学校	H28	30	8	15	2	0	55	すずかけ台小学校	H28	2	64	11	5	0	82
	H29	35	6	13	3	0	57		H29	4	49	12	6	0	71
	H30	31	11	16	4	0	62		H30	0	40	16	3	0	59
志手原小学校	H28	7	1	2	1	0	11	狭間小学校	H28	1	26	7	2	0	36
	H29	2	0	1	1	0	4		H29	0	17	7	3	0	27
	H30	10	2	1	0	0	13		H30	0	28	11	4	0	43
小野小学校	H28	4	2	1	2	0	9	弥生小学校	H28	1	20	3	0	0	24
	H29	7	0	2	0	0	9		H29	0	17	6	4	0	27
	H30	6	1	1	2	0	10		H30	0	23	0	2	0	25
母子小学校	H28	1	0	1	0	0	2	富士小学校	H28	2	49	5	7	0	63
	H29	1	0	0	0	0	1		H29	0	62	13	1	0	76
	H30	2	0	0	1	0	3		H30	2	46	10	2	0	60
広野小学校	H28	18	3	5	1	1	28	あかしあ台小学校	H28	1	59	15	4	0	79
	H29	8	6	8	5	1	28		H29	2	56	17	7	1	83
	H30	14	7	7	4	0	32		H30	6	53	13	6	0	78
本庄小学校	H28	7	2	3	0	0	12	つつじが丘小学校	H28	3	25	7	0	0	35
	H29	6	1	0	0	0	7		H29	5	16	2	3	0	26
	H30	7	2	2	0	0	11		H30	3	20	2	0	0	25
藍小学校	H28	13	1	3	1	1	19	けやき台小学校	H28	8	103	22	6	0	139
	H29	5	4	4	3	0	16		H29	10	118	18	7	0	153
	H30	7	1	4	2	0	14		H30	8	112	11	6	0	137
松が丘小学校	H28	8	3	3	1	0	15	学園小学校	H28	0	13	5	2	0	20
	H29	8	4	0	2	0	14		H29	1	20	9	0	0	30
	H30	9	6	7	1	0	23		H30	0	32	6	1	0	39
高平小学校	H28	5	1	3	1	0	10	ゆりのき台小学校	H28	7	108	15	10	0	140
	H29	16	1	3	1	1	22		H29	3	126	15	11	0	155
	H30	8	1	3	1	0	13		H30	12	141	19	14	0	186
(市立幼稚園地域)小計	H28	152	42	69	16	2	281	(私立幼稚園地域)小計	H28	34	531	103	45	2	715
	H29	143	49	60	21	2	275		H29	32	559	118	46	3	758
	H30	149	57	70	21	0	297		H30	39	553	110	41	0	743
三田小学校～高平小学校	H28	186	573	172	61	4	996	合計	H28	186	573	172	61	4	996
	H29	175	608	178	67	5	1,033		H29	175	608	178	67	5	1,033
	H30	188	610	180	62	0	1,040		H30	188	610	180	62	0	1,040

※その他:市外からの転居、市外保育教育施設、認可外保育施設、療育施設等

## 保育所等待機児童の状況について

## 1. 保育所等利用待機児童調査結果報告（平成30年4月1日現在）

		3号認定			2号認定			合計（前年度比）	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
2・3号認定者数（a）		73	256	331	346	342	332	1,680	+78
利用者数	認可保育所	42	123	149	152	148	133	747	▲243
	認定こども園	23	76	123	168	183	189	762	+329
	小規模保育施設	6	31	39	—	—	—	76	▲12
	市外（委託）	0	12	6	10	8	8	44	+4
	計（b）	71	242	317	330	339	330	1,629	+78
除外項目	①認可外保育施設利用	0	0	1	2	0	1	4	▲9
	②私立幼稚園利用	0	0	0	0	1	0	1	+1
	③特定保育施設希望	0	7	5	4	1	1	18	+5
	計（c）	0	7	6	6	2	2	23	▲3
<b>待機児童数（a-b-c）</b>		<b>2</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>28</b>	<b>+3</b>
備考	入所待ち状況	2	14	14	16	3	2	51	±0
	施設空き状況	29	14	15	1	7	27	93	

## ＜保育所等利用待機児童の定義＞

調査日時点において、保育の必要性の認定（2号又は3号）がされ、特定教育・保育施設又は特定地域型保育事業の利用の申込がされているが、利用していない者（主な除外項目）

- ①地方公共団体の単独保育施策（補助金等）の対象施設を利用している場合
- ②私学助成や就園奨励費補助の対象となる幼稚園で預かり保育等を利用している場合
- ③他に利用可能な保育施設の情報提供を行ったにもかかわらず、特定の施設を希望し、待機している場合

## ■居住別内訳

地区名	認定者数	前年度比	※待機児童数	前年度比	入所待ち数	前年度比
三田	304名（18%）	▲9	3名（11%）	+2	6名（11%）	+3
三輪	220名（13%）	+11	3名（11%）	▲1	5名（10%）	▲1
広野	78名（5%）	+4	1名（4%）	▲1	3名（6%）	+1
小野	12名（1%）	▲2	—		—	
高平	20名（1%）	▲3	1名（4%）	±0	3名（6%）	±0
藍	62名（4%）	+8	—	▲1	1名（2%）	▲2
本庄	9名（1%）	±0	1名（4%）	+1	1名（2%）	+1
フラワー	275名（16%）	+22	4名（13%）	+4	5名（10%）	+2
ウッディ	679名（40%）	+53	15名（53%）	▲1	27名（53%）	▲4
カルチャー	21名（1%）	▲6	—		—	
計	1,680名（100%）	+78	28名（100%）	+3	51名（100%）	±0

※入所待ち数の内数

## 市立幼稚園園児数の推移 (H30.5.1現在)

\* 4・5歳児混合保育

幼稚園名		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
三田	4歳	89	89	84	79	76	64	80	51	66	54	59	80	62	66	67	65	51	56
	5歳	99	86	91	83	75	76	61	81	54	69	58	61	80	66	70	62	65	51
	計	188	175	175	162	151	140	141	132	120	123	117	141	142	132	137	127	116	107
三輪	4歳	74	77	75	83	59	65	44	53	56	37	34	37	37	32	36	29	18	23
	5歳	92	76	73	77	87	55	64	42	54	54	38	38	42	41	32	34	32	21
	計	166	153	148	160	146	120	108	95	110	91	72	75	79	73	68	63	50	44
志手原	4歳	30	18	20	20	19	13	16	12	6	13	10	9	6	7	3	14	5	6
	5歳	16	29	18	21	19	19	13	16	13	7	13	10	11	7	7	5	14	5
	計	46	47	38	41	38	32	29	28	19	20	23	19	17	14	10	19	19	11
広野	4歳	52	52	45	49	36	22	31	22	23	25	20	28	17	33	22	33	30	25
	5歳	54	51	50	47	50	37	23	33	21	22	26	22	30	16	36	25	37	35
	計	106	103	95	96	86	59	54	55	44	47	46	50	47	49	58	58	67	60
本庄	4歳	13	15	8	14	9	6	14	9	8	2	6	7	7	6	6	4	3	5
	5歳	15	12	15	7	15	10	6	13	10	8	2	6	7	7	7	7	5	3
	計	28	27	23	21	24	16	20	22	18	10	8	13	14	13	13	11	8	8
小野	4歳	45	22	28	23	10	14	17	15	8	13	9	7	4	4	6	5	5	6
	5歳	44	48	19	26	24	8	17	17	14	8	14	9	7	5	4	8	6	6
	計	89	70	47	49	34	22	34	32	22	21	23	16	11	9	10	13	11	12
母子	4歳	1	2	3	1	3	3	0	1	2	0	2	0	1	1	1	2	1	0
	5歳	1	1	2	4	1	4	3	0	1	2	1	2	1	1	1	1	2	0
	計	2	3	5	5	4	7	3	1	3	2	3	2	2	2	2	3	3	0
藍	4歳	27	19	28	12	20	13	9	14	14	10	11	16	17	17	9	9	7	9
	5歳	30	27	20	26	12	22	12	9	15	20	10	11	16	15	17	10	9	9
	計	57	46	48	38	32	35	21	23	29	30	21	27	33	32	26	19	16	18
松が丘	4歳	40	48	27	29	12	22	17	13	12	9	11	25	12	8	9	13	7	4
	5歳	55	33	48	25	30	13	21	17	14	13	11	13	26	12	9	8	13	8
	計	95	81	75	54	42	35	38	30	26	22	22	38	38	20	18	21	20	12
高平	4歳	31	26	27	22	16	31	16	21	14	17	9	13	16	6	15	9	12	12
	5歳	26	33	26	27	22	14	33	17	20	14	19	9	14	17	6	16	9	12
	計	57	59	53	49	38	45	49	38	34	31	28	22	30	23	21	25	21	24
合計	4歳	402	368	345	332	260	253	244	211	209	180	171	222	179	180	174	183	139	146
	5歳	432	396	362	343	335	258	253	245	216	217	192	181	234	187	189	176	192	150
	計	834	764	707	675	595	511	497	456	425	397	363	403	413	367	363	359	331	296

三田市就学前保育・教育のあり方検討委員会より「三田市就学前保育・教育のあり方に関する提言書」が提出され、下記の項目に関する取組が求められた。

- 1 子どもの中で学びあえる（協同的に遊ぶ経験）環境づくり
- 2 多様な人間関係の中での社会性の育成
- 3 保幼・小連携の推進
- 4 地域の子育て支援拠点としての保育所・幼稚園
- 5 希望するすべての人へのサービスの提供体制の整備

## 三田市就学前保育・教育のあり方に関する提言書（H23.2.17）－抜粋－

### I 三田市の保育所・幼稚園の現状と課題

#### 5 保育所・幼稚園における課題

近年、特に公立幼稚園では、少子化等による集団の小規模化が進む中で、子ども同士が遊びに熱中して時には葛藤しながら互いに影響し合って活動する機会が減少している。幼児が初めて家庭を離れ多くの時間を過ごす園生活の場で、同年齢や異年齢による「協同的に遊ぶ」経験を十分に確保し、子どもの育ちを保障していくことが喫緊の課題となっている。

あわせて、日々の生活の連続性や発達・学びの連続性を確保し、その成果を小学校へ引き継いでいくことが今日的な実践テーマとなっており、教育の連続性・一貫性を確保し、子どもに対して体系的な教育が組織的に行われるようにしていくことが求められている。

さらに、保護者の就労形態の多様化などを背景に、保護者の保育ニーズも多様で柔軟なものが求められている。市内では、公立幼稚園では定員割れが進む一方で保育所入所待機が発生しており、保育需要のバランスが大きく変化している。

今後、三田市の就学前施設においても、国における「子ども・子育て新システム」で示される「こども園」制度の影響は避けられないものと考えられる。同制度案は、従来の福祉・教育の枠組みを超えてすべての子どもに質の高い保育・教育を提供し、支援を必要とするすべての家庭を支えようとするものであり、この理念をかなえつつ多様なニーズに応えていく体制を速やかに築くことが求められている。

### II 子どもの育ちを最優先

#### 1 人間形成の基礎を培う

##### ① 子どもの中で学びあえる（協同的に遊ぶ経験）環境づくり

平成 20 年に改訂された幼稚園教育要領、また同年告示の保育所保育指針では、幼児が家庭や地域において人とかかわる力を育む機会が失われつつある現状を踏まえ、「経験したことや考えたことを伝える意欲・態度を育て言葉で表現する力」や「豊かな感性と表現力」等を培うために、「協同的に遊ぶ」経験の大切さが強調されている。

幼児が初めて経験する集団生活の場である保育所や幼稚園において他者とかわることによ

り、互いに切磋琢磨し、遊びや体験を通して幼児同士が折り合いを付けること、充実感や達成感、時には挫折感等様々な感情体験をすることなど、多様な経験を通して人とかかわる力の基礎をはぐくむことが求められている。

#### 【現状と課題】

公立幼稚園においては、少子化に伴い園児数が減少しており、さらに今後も 10 名以下の学級が増加し、4 歳・5 歳の各年齢で、単学級になる園が増加することが予測される。

園児数が少ないことは、園児一人ひとりに保育者の目が行き届き、きめ細やかな指導ができるというプラス面もある一方、子どもたちにとって集団における様々な体験や人とのかかわりが希薄となり、同じ年齢の集団での遊びや人間関係が固定化したり、活動内容の選択の幅が狭くなったりすることも考えられる。

市では、1 学級の園児数が著しく少ない園については、1 園実施済みである「異年齢児混合学級」を増やし対応する計画がある。しかし、今後 10 人程度の学級が増加する中で、単学級では多面的な指導や評価が難しく、保育を刺激し高めることに課題を抱えていくことが必至である。

#### 【検討委員会での意見】

- 小規模園では、小学校との連携を密に実施することで就学への不安がなくなり保護者も安心である。地域の幼稚園へ就園することに意義がある。
- 1 学級の定員は 35 人だが、保護者からみると 30 人近い人数に保育者 1 人というのは、少し不安を抱かれることもある。多いゆえに友達とかかわりにくい状況もある。少人数では兄弟のように育ち団結力ができる。
- 公立幼稚園の中には同年齢での横のつながりも異年齢での縦のつながりもできにくい環境にある園がある。この現状の中で異年齢児交流に視点をおき、研究や研修を推進している。
- 保育所は単学級なので、クラス同士で競い合ったり刺激しあったりすることが少ない。保育士の資質向上の面でも同様である。そのため平成 22 年度から「保育士部会」を実施し、他の保育所へ巡回して研修会を実施している。
- 小規模園で子どもたちの「協同的に遊ぶ」経験を保障するポイントは人数かなと思う。現状の中では、小学校との連携、保護者や地域の方々のかかわりで補っているが、今後も園児数が増加しないのであれば「協同的に遊ぶ」経験を保障するには他のシステムを考えなければならぬ。
- 「仲間」はいつも一通りではなく、豊かな遊びを保障しようと思うといろいろな組み合わせが必要である。そう考えるとあまりにも少人数というのは関係がワンパターン化するので、ある程度の人数は必要である。
- 「協同的な学び」の経験は、5 歳児の発達の特性を前提とし、幼児教育において達成されるべき課題である。従って、5 歳児というひとつの集団の中で成り立つ人数と保育内容が必要で異年齢交流だけではカバーできないところもある。
- 学び合うのは子どもたち。私たちができることは、ある程度の人数規模を確保することに努めることである。

○**20人ぐらいが理想と思う。教育環境として幼児教育を考えると友達と一緒に「協同的に遊ぶ」経験を積み重ね、達成感や、葛藤体験を経験することが大事である**と考える。

○人数が問題ではなく、地域で地域の子どもが楽しく過ごすことが大切であると思う。

○人数が何人だからよいということではなく、地域によって、子どもの人数の格差による教育の質の違いや、今の日本の子どもの状況、子育て状況を考えることが大切である。公立幼稚園のみならず、私立幼稚園の定員割れ、かたや保育所の待機児童の状況を把握し、長期的視野をもって、就学前保育・教育の先を見据えることが大切である。

#### 【今後の方向性】

幼児が遊びを通して多様な経験をし、人とかかわる力の基礎を育むこと、幼児期における「協同的に遊ぶ」経験の積み重ねは、三田の子ども達が今後少子化の時代を生きていく上でますます欠かせない。そのため、**定員充足率が顕著に低下している公立幼稚園においては、教育・保育の実践面及び園や組織の運営面から、適正な人数・適正な学級の確保に向けた以下の取り組みを進めるべきである。**

また、意見に見られたとおり、現在少人数園等において保護者の信頼を得るような温もりのある保育が行われていることは、三田の就学前保育・教育がこれまで培ってきた伝統・風土の現われであり、今後のあり方全体を検討する上で十分に生かされるよう努めるべきである。

#### 【提言】

- ◆ 今後、幼稚園同士の交流や幼稚園と保育所の交流を進め、合同活動を拡充されたい。また、縦のつながりとして、3歳・4歳・5歳の異年齢児交流や保幼・小連携など異年齢児との交流の機会を多く持ち、多面的な経験を保障されたい。
- ◆ **1学級の人数については、「協同的に遊ぶ」経験を確保するために、幼児期の発達段階に応じた集団活動や遊びのグループ単位など教育的側面から見て、適正な人数の実現に努められたい。**
- ◆ 今後も児童数の減少傾向は明らかなことから、現場の実践的な努力や地域・保護者の参画では補完できない面に対しては、幼保一体化施設の設置や幼稚園・保育所の適正配置など新たなシステムも、国の動向などを視野に入れて検討されたい。

### Ⅲ 子育て家庭への支援

#### 2 多様な保育ニーズに対応する

##### ①希望するすべての人へのサービスの提供体制の整備

###### 【検討委員会での意見】

○**国道176号より東側に保育所がない。**近くにないので、30分かけて連れて来ている方もいる。貴重な親子の時間であり、地域による保育サービスの格差についても考えていく必要



がある。

- 同じ保育所の間でも、乳幼児の受け入れ可能な年齢や土曜日の保育時間が異なるため、同じ保育サービスが受けられる環境が必要である。
- 土日勤務であったために、土曜日に預かってもらえるところを探していた。
- 今後、土・日の勤務も増えていくと考えられ、そのような保護者のニーズに対応していくことが必要だと思う。
- 公立幼稚園でも、3歳以下の子どもたちの育ちについて幼稚園での子育て支援事業の中で取り組んでいきたい。**
- 公立幼稚園の園児数減少という中で、既存施設の利用という観点からも認定こども園の検討も必要（認定こども園によって3歳児保育も解消）**
- 公立幼稚園で扶養の範囲内で働きたいという思いはあるが、2時降園ではしんどい。また、子どもが熱を出したときの対応など課題も多い。
- 待機児童を解消するため、新規の施設をつくる予算がないから、いっしょにしたらどうかというのは、大人の都合であり、子ども本位で考えていないことが心配である。

#### 【今後の方向性】

多様な保育ニーズに応じて担い手を確保し、地域の子育て家庭に安心をもたらすことは、結局子ども自身にとっての安心と健やかな育ちにつながる。今後、国の「こども園」構想において保育基盤の垣根が大きく緩和される可能性もある。その動きを見据えながら、できることから保育サービスの充実を図るべきである。

また、その手段の一つとして、**現在保育所機能が市南西部に偏っていることから、地域的なアンバランスの解消と待機児童解消の方策として、公立幼稚園を活用した幼保一体化についても検討していく**ことが必要である。

#### 【提言】

- ◆私立幼稚園の認定こども園（幼稚園型）については、待機児童対策、保育ニーズに応えるという点で有効と考えられるため、助成制度を継続されたい。
- ◆就労形態の多様化による保護者ニーズに対応するため、どの市内認可保育所においても、受け入れ年齢や土曜保育時間など、同じ条件で保育サービスを受けられるよう均一化を図られたい。
- ◆公立幼稚園において、保護者ニーズに応える方策として「預かり保育」の実施を検討されたい。
- ◆**既存の幼稚園、保育所、認定こども園のバランスを考慮しながら就学前施設の適正配置を検討されたい。その中では、保護者や地域などの意見を参考に既存施設を活用した幼保一体化など有効な手法を検討されたい。**

## 平成 30 年度 三田市立幼稚園の園児数〔園区内就園率の状況〕

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

	年少(4歳児)					年長(5歳児)					総計			クラス数		
	計	うち園区内	うち園区外	対象児数	園区内就園率	計	うち園区内	うち園区外	対象児数	園区内就園率	計	うち園区内	うち園区外	年少	混合	年長
三田幼	56	49	7	120	41%	51	47	4	120	39%	107	96	11	2	-	2
三輪幼	23	21	2	63	33%	21	21	0	67	31%	44	42	2	1	-	1
志手原幼	6	5	1	10	50%	5	5	0	8	63%	11	10	1	-	混合1	-
広野幼	25	12	13	37	32%	35	18	17	35	51%	60	30	30	1	-	2
本庄幼	5	5	0	8	63%	3	3	0	5	60%	8	8	0	-	混合1	-
小野幼	6	6	0	13	46%	6	4	2	8	50%	12	10	2	-	混合1	-
母子幼	0	0	0	0	-	0	0	0	1	0%	0	0	0	-	-	-
藍幼	9	2	7	11	18%	9	7	2	15	47%	18	9	9	1	-	1
松が丘幼	4	3	1	17	18%	8	6	2	17	35%	12	9	3	1	-	1
高平幼	12	12	0	18	67%	12	12	0	15	80%	24	24	0	1	-	1
計	146	115	31	297	39%	150	123	27	291	42%	296	238	58	7	3	8
													計18学級			

